

■2019年度 研究ブランディング事業年次計画進捗報告書

講座・部門名（ iPS・幹細胞再生医学講座 ）

研究代表者（ 人見 浩史 ）

2019年度実施項目（全体でA4 2頁以内に記載）

1. 研究目標（提出計画書に基づき記載）

iPS細胞由来 T細胞の作製の着手

2. 2019年度研究進捗・成果（論文、学会発表を含む）

iPS細胞由来 T細胞の作製に着手した。OP9細胞株および OP9細胞株に delta like notch ligand 1 (DLL-1)を強制発現させた OP9-DLL1細胞との共培養により iPS細胞から hemangioblast、ついで T細胞の誘導を行っている。

また DLL1と同様にリンパ球誘導にかかわる分子である DLL4を発現する OP9を作製中である。現在レトロウイルスベクターによる遺伝子導入実験を行っている。

【発表論文】

CD140b and CD73 are markers for human induced pluripotent stem cell-derived erythropoietin-producing cells, FEBS openbio, Epub ahead of print, doi: 10.1002/2211/5463.12800, 2020

【発表】

第3回関西医科大学学術祭：「iPS細胞で異常免疫にブレーキをかける」

3. 2019年度ブランディング目標（提出計画書に基づき記載）

「難治性免疫・アレルギー疾患の原因究明と治療法の開発」の一環として本講座の取り組みを周知する。

4. 2019年度ブランディング活動進捗・成果（メディア、その他）

本学サイトにより、本学のテーマである「難治性免疫・アレルギー疾患の最先端研究拠点大学としてのブランド形成」に関わる免疫制御法の開発の一環として、本講座の iPS細胞由来制御性 T細胞の作製への取り組みについて公表した。

日本腎臓学会、日本薬理学会のシンポジウム、および地方の各種研修会において、当事業内容について発表した。

5. 自己評価（達成度、改善点など）

おおむね当初の研究計画どおりに進捗していると考ええる。今後も速やかな研究進捗に努めるとともに、同事業に関して機会のある度に周知するように努力する。